

令和4(2022)年度以降版

教科書のご案内



*本冊子に掲載している内容は、一部変更となる場合があります。

内容解説資料
歴 総 - 706

「教科書発行者行動規範」
に則っております。

文部科学省検定済教科書 高等学校地理歴史科用
46 帝国 歴総-706



明 解 歴史総合

おもしろい！ わかりやすい！ ためになる！

「世界史×日本史」新しい歴史に出会える教科書

新科目「歴史総合」のポイントと教科書の特徴…………… 2	QRコンテンツ…………… 28
全体構成…………… 4	デジタル副教材…………… 29
特色1 世界とその中の日本が捉えられる！…………… 6	指導資料・関連教材…………… 30
特色2 生徒が歴史に興味・関心を持てる！…………… 16	特色一覧／著作者…………… 裏表紙
特色3 アクティブラーニングで学びが深められる！… 20	

帝国書院

おもしろい！ わかりやすい！ ためになる！

「世界史×日本史」新しい歴史に出会える教科書



明解 歴史総合

令和4(2022)年度発行
歴総-706
AB判 238ページ

■ QRコンテンツ

動画や用語解説，一問一答，地図や年表などのデジタルコンテンツが充実。
*詳細は本冊子p.28および帝国書院ウェブサイトをご覧ください。

■ 関連教材

デジタル副教材や指導資料などの関連教材が充実。
*詳細は本冊子p.29-31および帝国書院ウェブサイトをご覧ください。

● 新科目「歴史総合」のポイント

■ 学習の目的 -世界史と日本史が融合した新しい科目-

・近現代の歴史の変化に関わる諸事情について，世界とそこにおける日本を広く相互的な視野から捉え，資料を活用しながら歴史の学び方を習得し，現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を考察，構想すること。

■ 歴史総合の内容

・近現代の歴史の大きな変化を「近代化」，「国際秩序の変化や大衆化」，「グローバル化」と表し，「A 歴史の扉」，「B 近代化と私たち」，「C 国際秩序の変化や大衆化と私たち」，「D グローバル化と私たち」の4つの大項目が設定されている。

歴史総合の3つのキーワード

近代化

産業社会と国民国家の形成を背景とした，人々の生活や社会の在り方の変化。

国際秩序の変化や大衆化

国際的な結び付きが強まり，国家間の関係性が変化したことや個人や集団の社会参加が拡大したことを背景とした，人々の生活や社会の在り方の変化。

グローバル化

科学技術の革新を背景に人・商品・資本・情報等が国境を越えて一層流動するようになった，人々の生活や社会の在り方の変化。

歴史総合の内容

A 歴史の扉

(1) 歴史と私たち (2) 歴史の特質と資料

B 近代化と私たち

(1) 近代化への問い (2) 結びつく世界と日本の開国
(3) 国民国家と明治維新 (4) 近代化と現代的な諸課題

C 国際秩序の変化や大衆化と私たち

(1) 国際秩序の変化や大衆化への問い (2) 第一次世界大戦と大衆社会
(3) 経済危機と第二次世界大戦 (4) 国際秩序の変化や大衆化と現代的な諸課題

D グローバル化と私たち

(1) グローバル化への問い (2) 冷戦と世界経済
(3) 世界秩序の変容と日本 (4) 現代的な諸課題の形成と展望

出典：高等学校学習指導要領解説 地理歴史編

特色 1

世界とその中の日本が捉えられる！

- 世界と日本を結び付ける本文記述
- 世界と日本の動きを一体として理解できる単元構成
- 前近代史がコンパクトにまとまった巻頭の資料「地域の歩み 1～5」

本冊子
p.6-15

特色 2

生徒が歴史に興味・関心を持てる！

- ビジュアルに捉えられる「生活・文化から見る日本と世界」
- 身近な視点が生徒の関心を高める「ものから見る歴史」・「人物コラム」

本冊子
p.16-19

特色 3

アクティブラーニングで学びが深められる！

- 「見通し」と「振り返り」で確かな学力が身に付く部構成・見開き構成
- 思考力・判断力・表現力を育成する「歴史に迫る！」・「歴史の選択肢」
- 資料の収集・整理・分析の技能が習得できる「技能を磨く」

本冊子
p.20-27

↓教科書 巻頭5-巻頭6

もくじ

現在の世界	巻頭1
現在の日本と世界文化遺産	巻頭3
日本の歴史年表	巻頭4
もくじ	巻頭5
本書の使い方	巻頭7
はじめに	巻頭8

◆各地域の諸文明

地域の歩み1 東アジアの文明

1 東アジアの風土と人々	資料1
2 日本の歴史	資料3
3 東アジアの歴史	資料5

地域の歩み2 南・東南アジアの文明

1 南・東南アジアの風土と人々	資料7
2 南・東南アジアの歴史	資料9

地域の歩み3 西アジア・北アフリカの文明

1 西アジア・北アフリカの風土と人々	資料11
2 西アジア・北アフリカの歴史	資料13

地域の歩み4 ヨーロッパの文明

1 ヨーロッパの風土と人々	資料15
2 ヨーロッパの歴史①	資料17
3 ヨーロッパの歴史②	資料19

地域の歩み5 南北アメリカの文明

1 南北アメリカの風土と人々	資料21
2 南北アメリカの歴史	資料22

1部 歴史の扉

1章 歴史と私たち	1
①お茶から見る日本と世界の歴史	2
②食文化から見る日本と世界の歴史 ～餃子を事例に～	3
③身近な史跡から見る日本と世界の歴史 ～長崎を事例に～	4
2章 歴史の特質と資料	
1節 資料を取り扱ってみよう	5
【技能】①資料の特質と読み解き	7
②資料の比較・関連付け	9
2節 歴史叙述とは何か考えてみよう	10

●本書の構成

資料

本編：1部～4部



近代化・18世紀後半～日露戦争

2部 近代化と私たち

18世紀までの世界	11
序章 近代化への問い	
19世紀の世界	13
「近代化」について考察していこう！	15
6つのキーワードから問いを表現してみよう！	19
1章 江戸時代の日本と結び付く世界	20
1節 アジアのなかの江戸幕府	21
2節 成熟する江戸社会	23
3節 清の繁栄と結び付く東アジア	25
4節 アジア・アメリカに向かうヨーロッパ	27
生活・文化から見る日本と世界① 江戸後期	29
2章 欧米諸国における近代化	32
1節 イギリスの革命とアメリカの独立	33
2節 フランス革命～ヨーロッパ近代の幕開け	35
3節 フランス革命の影響と国民意識の芽生え	37
4節 産業革命で変わる社会	39
5節 イギリスの繁栄と国際分業体制	41
3章 近代化の進展と国民国家形成	46
1節 1848年～近代ヨーロッパの転換点	47
2節 イタリア・ドイツの統一とロシアの近代化	49
3節 アメリカの拡大と第2次産業革命	51
4節 帝国主義と世界の一体化	53
4章 アジア諸国の動揺と日本の開国	56
1節 「西洋の衝撃」と西アジアの変化	57
2節 南・東南アジアの植民地化	59
3節 ヨーロッパの日本接近とアヘン戦争	61
4節 黒船の来航と日本の対応	63
5節 新体制の模索と江戸幕府の滅亡	65
5章 近代化が進む日本と東アジア	70
1節 新政府の誕生	71
2節 近代国家を目指す日本	73
3節 日本と清の近代化と日清戦争	75
4節 列強の中国進出と日露戦争	77
5節 日露戦争が与えた影響	79
生活・文化から見る日本と世界② 明治期	81
「近代化」を振り返り現代的な諸課題と結び付けて考えよう！	83
【技能】③情報の集め方	85
④情報のまとめ方 意見交換の方法	86

国際秩序の変化や大衆化・第一次世界大戦～1950年代前半

3部 国際秩序の変化や大衆化と私たち

序章 国際秩序の変化や大衆化への問い	
20世紀前半の世界	87
「国際秩序の変化や大衆化」について考察していこう！	89
5つのキーワードから問いを表現してみよう！	93
1章 第一次世界大戦と日本の対応	94
1節 ドイツの挑戦とバルカン半島の緊張	95
2節 総力戦となった第一次世界大戦	97
3節 ロシア革命と大戦の終結	99
2章 国際協調と大衆社会の広がり	106
1節 ヴェルサイユ体制の成立	107
2節 東アジアの民族自決の行方	109
3節 中東・インドの民族自決の影響	111
4節 ヨーロッパの復興と大衆の政治参加	113
5節 大衆社会の出現とアメリカの繁栄	115
6節 日本における大衆社会の形成	117
生活・文化から見る日本と世界③ 大正期	119
3章 日本の行方と第二次世界大戦	122
1節 世界恐慌が与えた影響	123
2節 ファシズムの台頭と拡大	125
3節 政党政治の断絶と満洲事変	127
4節 日中戦争の始まり	129
5節 第二次世界大戦の展開	131
6節 戦局の悪化と被害の拡大	133
7節 第二次世界大戦の終結とその惨禍	135
生活・文化から見る日本と世界④ 戦中期	137
4章 再出発する世界と日本	142
1節 戦後の新たな国際秩序	143
2節 冷戦の始まり	145
3節 日本撤退後の東アジア	147
4節 日本の改革と独立の回復	149

「国際秩序の変化や大衆化」を振り返り現代的な諸課題と結び付けて考えよう！ 151

歴史に迫る！ (5テーマ)	
1 フランス革命は人権宣言の理念をどこまで実現できたのか	43
2 幕府の対外交渉をどう評価するか	67
3 二十一か条要求の何を問題とすべきか	101
4 チェンバレンの政策をどう評価するか	139
5 黒人差別の克服にはどのような取り組みが必要なのか	179

グローバル化・1950年代後半～現在

4部 グローバル化と私たち

序章 グローバル化への問い	
20世紀後半以降の世界	153
「グローバル化」について考察していこう！	155
7つのキーワードから問いを表現してみよう！	157
1章 冷戦で揺れる世界と日本	158
1節 アメリカ・ソ連の緊張と緩和	159
2節 冷戦下における日本の復興	161
3節 第三勢力の形成と脱植民地化	163
4節 中東戦争とパレスチナ問題	165
生活・文化から見る日本と世界⑤ 高度経済成長期	167
2章 多極化する世界	170
1節 揺らぐアメリカと先進各国の変化	171
2節 「経済大国」日本の模索	173
3節 経済発展に取り組むアジア・南米諸国	175
4節 イスラーム復興と冷戦への影響	177
3章 グローバル化のなかの世界と日本	184
1節 冷戦の終結と変わる世界構造	185
2節 冷戦の終結が与えた世界への影響	187
3節 超大国アメリカと中東情勢	189
4節 国際環境の変化と日本	191
5節 グローバル化による国際社会の変容	193
これまでの学習を振り返り	
現代的な諸課題の形成と展望を考えよう！	195
【技能】⑤レポートや小論文の書き方	198
さくいん	199
歴史に関連する映画を見てみよう！	205
歴史総合 頻出用語解説	巻末1
世界の歴史年表	巻末2～3

ものから見る歴史 (9テーマ)	
FILE.1 綿織物	31
FILE.2 学校	45
FILE.3 博覧会	55
FILE.4 地図	69
FILE.5 防災と復興	105
FILE.6 衣服	121
FILE.7 音楽	141
FILE.8 核兵器	169
FILE.9 感染症	183

世界と日本を結び付ける本文記述

●日本を中心とした学習内容にも、世界とのつながりがわかる本文記述を盛り込んでおり、世界との中における日本を相互的な視野から捉えられる。

↓教科書 p.73-74



大日本帝国憲法(1889年)

第1条 天皇ハ神聖ニシテ侵スヘカラス

第4条 天皇ハ国ノ元首ニシテ統治権ヲ総攬シ此ノ憲法ノ上記ニ依リテ之ヲ行フ

第11条 天皇ハ陸海軍ヲ統帥ス

第28条 日本臣民ハ安寧秩序ヲ妨ケス及臣民タルノ義務ニ背カサル限ニ於テ信教ノ自由ヲ有ス

第29条 日本臣民ハ法律ノ範圍内ニ於テ言論著作印行[※]集会及結社ノ自由ヲ有ス

[※]圖書の印刷や発行

←1 大日本帝国憲法の発布(1889年)
 (憲法発布式之図) 東京都立中央図書館蔵

読み解き 大日本帝国憲法は、誰から与えられ、誰を中心とした憲法なのだろうか。

全 27 か所



●コラム「世界の中の日本」
 当時の世界と日本との関連を取り上げたコラム。「世界との中の日本」という視点で歴史をより深く捉えられる。

2 近代国家を目指す日本

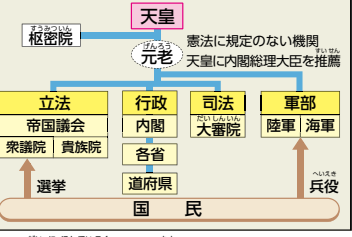
前のできごと 日本→p.71

次のできごと 日本→p.75

伊藤がヨーロッパで学んだ立憲政治

憲法調査のために渡欧した伊藤は、まずベルリン大学のグナイストから「憲法は国民精神の表れ」という教えを受けた。他方、ウィーン大学のシュタインからは、議会制度と行政の調和による国の全体像を学んだ。こうして伊藤は、立憲政治は憲法の制定のみで実現できるものではなく、議会制度などの国のしくみと、それを運用する行政制度の整備が必要と学んだ。さらには、それを運営していく人々の養成と教育が重要と学び取った。

→2 留学中の伊藤博文



↑3 大日本帝国憲法の下での国のしくみ

立憲体制への道のり
 征韓論をめぐる政変によって政府が分裂したことで、藩閥政府への批判が高まり、人々の政治参加を求める自由民権運動が本格化した。これに対して新政府は、1875年に、しだいに立憲体制に移行するという方針を示し、準備を始めた。五箇条の誓文に「広く会議ヲ興シ万機公論ニ決スベシ」と掲げられたように、国民の政治参加を認め、議院政体を採ることは、新政府にとっても大きな目標であった。

一方、自由民権運動を進める民権派は、私立学校の設立や演説会を通じて、フランス人権思想や欧米議会制度のしくみを広め、地租の引き下げを求める有力農民なども参加して全国的な運動となっていった。そして、板垣退助が結成した愛国社をルーツとする国会期成同盟によって、80年に国会開設請願書が提出されると、国民の政治参加を求める気運はさらに高まり、私擬憲法の起草を通じての民間での憲法論議が盛んになった。

この自由民権運動の盛り上がりに対し、新政府の指導層である伊藤博文らは、81年に政府内で急進的に議院内閣制を求める大隈重信らの意見を排除する一方で、90年の議会開設を天皇の名で国民に約束した(国会開設の勅諭)。こうして、新政府は、立憲体制に向けて大きく動き出した。

憲法発布と帝国議会
 1882年、伊藤は、立憲制度導入のため、ヨーロッパに渡って諸外国の政治や制度の調査を行い、翌83年に帰国すると、必要な制度改革を進めていった。85年には内閣制度が導入され、今日まで続く内閣総理大臣を首班とする政府の在り方が形づくられた。伊藤を中心に憲法草案が作成され、89年2月11日、天皇が定める憲法と

3 中学校との関連 自由民権運動、国会期成同盟、内閣制度、大日本帝国憲法、帝国議会、衆議院議員総選挙、民法、領土

日本で初めて女性の参政権を実現した 樺山喜多 (1836～1920)

高知県の上町に住み、戸主であった喜多は、1878(明治11)年、区会議員の選挙で「戸主として納税しているのに、女だから選挙権がないというのではおかしい。本来義務と権利は両立するのが道理であり、選挙権がないなら納税しない」と県に抗議し、拒否されると内務省に訴えた。当時、世界でも女性参政権はアメリカのワイオミング州議会だけといわれていたなか、喜多の住む地域では80年から女性参政権が認められた。しかし4年後の法改正により、また男性しか投票できなくなった。喜多はその後、亡くなるまで女性民権家として活動を行った。(高知市立自由民権記念館蔵)

未来へ活かす歴史 『日本国民』とされるアイヌの人々

19世紀以降、世界各地での国民国家形成の過程で、先住民(→p.52)などマイノリティとよばれる人々が「国民」として統合された。日本の場合、北海道や千島列島などに先住するアイヌの人々(→p.22)は「日本国民」に同化させられた。新政府は、アイヌ古来の風習や言語を禁止し、日本語教育などを行い、保護の名目で「北海道旧土人保護法」を公布した。アイヌの人々は従来の生活や文化を保つことが難しくなった。教育はアイヌの人々だけの学校で行われ、その後1937年に通常の学校に通学できるようになったが、学内では差別があった。現在では、2007年の国連での「先住民の権利に関する国際連合宣言」採択を受け、翌年アイヌの人々を「先住民」とすることを求める国会決議がなされ、2019年のアイヌ施策推進法にて「先住民」と明記された。

→4 アイヌ学校(北海道江利川市刈穂) (北海道大学附属図書館蔵)

して大日本帝国憲法が発布され、翌90年の帝国議会の開設へと至った。これは、欧米以外の国において、当時唯一の立憲政治の始まりであった。

しかし、90年に行われた最初の衆議院議員総選挙では、高額納税者の成年男性にしか選挙権は与えられず、有権者は国民の1%程度でしかなかった。また、北海道や沖縄県の人々には参政権がなく、国政に関ることができなかった。同時期のイギリスでは、国民の約19%が選挙権を有しているのとは比べると低い数値であったが、イギリスも制限選挙であり、選挙権の拡大は、各国が抱える共通の課題であった。

憲法制定と共に諸法典も整備され、日本の近代法制度が出来上がった。

10 民法については、フランス人法学者ポアソナードが起草した法典が90年に公布されたが、日本人の法学者から反対が出され、結局日本人の手による新しい民法典が98年に施行された。

日本の国境画定
 近代国民国家は、主権を有し、それを構成する国民と主権が及ぶ領土を持つ。新政府も近隣国との領土画定に努めた。

15 北方ではロシアと、幕府が結んだ日露通好(和親)条約による択捉島・得撫島間の国境画定に続き、樺太・千島交換条約を結び、日本は樺太を放棄し千島列島を得た。琉球については、日本と清の両属関係であったが、琉球諸島の船が台湾に漂着した際、乗組員が殺害される事件が起こった。日本は抗議して、1874年に台湾出兵を行ったが、これに対し清が事実上の賠償金を支払ったため、日本は琉球が日本領となったと見なして79年に沖縄県を設置した。小笠原諸島は、幕末に幕府が英米両国へ日本領であることを通告しており、76年に国際法に基づき領有が認められた。さらに日本は、95年に尖閣諸島の沖縄県への編入、次いで1905年に竹島の島根県への編入を閣議決定し、自国の領土とする意思を公式に示した。

当時、制限選挙は日本だけでなくイギリスでも実施され、選挙権の拡大が世界共通の課題であったことがわかる。

1 ロシア 1855年 日露通好(和親)条約 1872年 琉球藩設置
 1875年 樺太・千島交換条約 1879年 沖縄県設置

2 清 1871年 日清修好条規 1879年 尖閣諸島を沖縄県に編入
 1874年 台湾出兵 1876年 英米が日本の領有を承認

3 朝鮮 1875年 江華島事件 1905年 島根県に編入
 1876年 日朝修好条規

4 琉球諸島 5 小笠原諸島 6 竹島

※ 国境線、色丹島、歯舞島、択捉島が日本領に画定(現在の北方領土)

↑5 明治初期の日本の国境と外交

2 国際法上、どの国にも属さない土地を、最初に領有の意思を持って占有すると、その土地は占有した国家の領土になるとされている。

確認 日本が政治制度を整えるために、開設や発布したものを、本文から時系列順に書き出そう。

説明 近代国家となった日本の政治に、国民はどの程度参加することができたのだろうか、説明しよう。

当時の日本の議会制度や行政制度は、ヨーロッパの影響を受けたものであることがわかる。

世界とその中の日本が 捉えられる！

世界と日本の動きを一体として理解できる単元構成

近代化

例) 2部4章 アジア諸国の動揺と日本の開国

1節 「西洋の衝撃」と西アジアの変化

2節 南・東南アジアの植民地化

3節 ヨーロッパの日本接近とアヘン戦争

4節 黒船の来航と日本の対応

5節 新体制の模索と江戸幕府の滅亡

↓教科書 p.57-58



1 「西洋の衝撃」と西アジアの変化

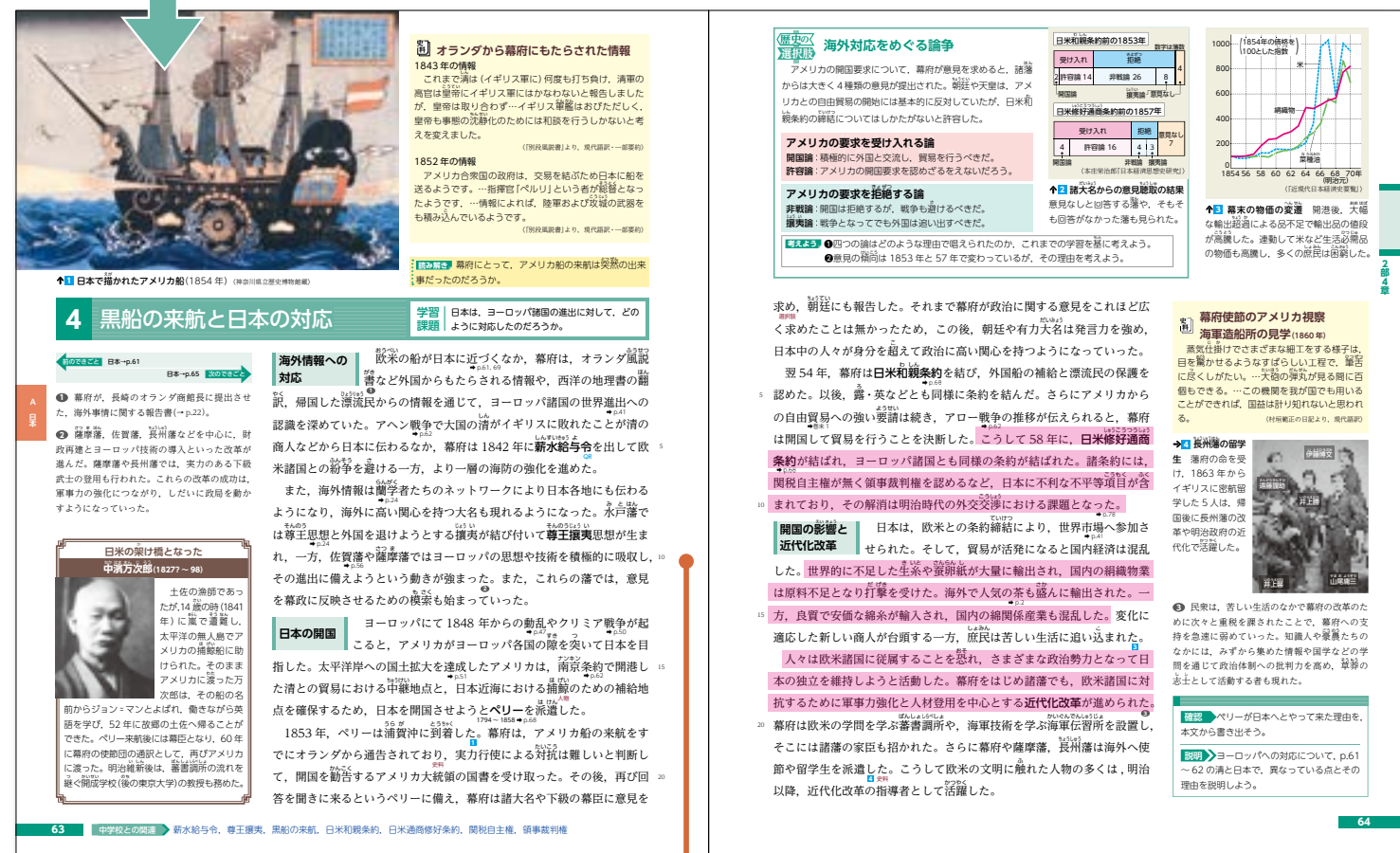
18世紀後半、近代化が進むヨーロッパ諸国は、自由貿易をうたった本格的にアジアに進出した。アジア諸国は、強大な武力を持つヨーロッパ諸国に対抗しつつ、自身の存続と発展を図らなくてはならなかった。これを一般的に「西洋の衝撃」とよぶ。

18世紀のオスマン帝国は、地方の有力者が強大化し、オスマン政府の支配が全域に行き届かなくなっていた。この状況を見て、ヨーロッパ諸国はオスマン帝国への進出を強めた。1798年、ナポレオンフランス軍が、イギリスのインドへの道をはばむため、オスマン帝国領のエジプトを3年間占領した。エジプトの権力構造は混乱し、フランス軍撤退後はオスマン軍人ムハンマド・アリーが実権を握った。彼は、徴兵制により軍を近代化してオスマン政府を圧倒し、エジプトに事実上の独立王国を築いた。

一方、クリミア半島では、ロシアが南下してオスマン帝国とたびたび争い、覇権を争った。さらに、キリシヤ人が独立戦争を開始し、ロシアやイギリスの軍事介入を得て独立を達成した。このほかにも、多民族国家であるオスマン帝国の各地で、諸民族が独立運動を起こした。

オスマン帝国の危機 危機に直面したオスマン帝国は、1839年にタンジマートとよばれる近代化改革を開始した。この改革では、オスマン帝国の住民は宗教にかかわらず法の下に平等であるというオスマン主義の、国民の一体化が目指された。政治や教育の近代化改革が行われ、中央集権的な官僚機構や、近代的な軍隊・法律が整えられた。76年には、オスマン帝国初の憲法(ミドハト憲法)が制定された。これは、国民の平等、議会制、言論の自由などを保障したものであった。しかし、スル

↓教科書 p.63-64



4 黒船の来航と日本の対応

幕府が、長崎のオランダ館長に提出させた、海外事情に関する報告書(→p.22)。

幕府は、長崎のオランダ館長に提出された、海外事情に関する報告書(→p.22)。

幕府は、長崎のオランダ館長に提出された、海外事情に関する報告書(→p.22)。

幕府は、長崎のオランダ館長に提出された、海外事情に関する報告書(→p.22)。

オスマン帝国は「西洋」諸国と不平等な条約を結び、戦争が重なったことで近代化が進まなかったことがわかる。

アジアの他地域と日本を対比して学べる

日本も欧米と不平等な条約を結び国内産業は打撃を受けた。一方で、人々は日本の独立を維持しようと活動したり、幕府や諸藩では近代化改革が進められたりしたことがわかる。

世界とそこの中の日本が 捉えられる！

世界と日本の動きを一体として理解できる単元構成

国際秩序の変化や大衆化

例) 3部2章 国際協調と大衆社会の広がり



●第一次世界大戦後、各国で大衆化が拡大したという流れの中で、同時代の日本を学べるため、日本での大衆化が理解しやすい。

↓教科書 p.113-114

年	GDP(兆円)
1919.12	0.8
1921.12	3.9
1922.12	163.15
1923.4	474
27	3,465
8	69,000
9	1,512,000
.10	1,743,000,000
.11	201,000,000,000
.12	399,000,000,000
1924.1	612,000,000,000

↓教科書 p.117-118

ナショナリズムを掲げた大衆運動が台頭したドイツ、イタリアの例や、女性にも選挙権が拡大したイギリスの例など、第一次世界大戦後の世界で大衆の政治参加や女性運動が広がったことがわかる。

世界の動きを踏まえて 日本の大衆化を捉えられる

日本においても、大正時代に入ると、「大正デモクラシー」とよばれる大衆による民主主義的な動きが強まったことがわかる。また、女性運動など様々な社会運動も活発になったことがわかる。

世界と日本の動きを一体として理解できる単元構成

グローバル化

例) 4部3章 グローバル化のなかの世界と日本

1節 冷戦の終結と変わる世界構造

2節 冷戦の終結が与えた世界への影響

3節 超大国アメリカと中東情勢

4節 国際環境の変化と日本

5節 グローバル化による国際社会の変容

↓教科書 p.185-186



1 冷戦の終結と変わる世界構造

学習 冷戦体制が終結することで、世界構造はどのように変化したのだろうか。

東欧革命とソ連の解体

東欧では、1980年にポーランドでワレサ率いる自主労働組合「連帯」による民主化運動が起こり、80年代のハンガリーでも経済の自由化と政治改革が進み、改革の動きが始まっていた。そこへ、ソ連のゴルバチョフによるペレストロイカが始まった影響もあり、ポーランドでは、89年の選挙で非共産党政権が生まれた。これを初めとして、89年に次々と共産党政権が倒れた(東欧革命)。また、ドイツでは、東ドイツの人々が東欧経由で西ドイツへの移動が可能になった状況を受け、冷戦の象徴であった「ベルリンの壁」が、89年に開放された。そして、翌90年、東ドイツが西ドイツに併合された(東西ドイツ統一)。この年は多くの国で自由選挙が行われ、東欧の民主主義が明白となった。

ソ連のペレストロイカは、対外的には緊張緩和をもたらした。89年の米ソ首脳会談(マルタ会談)で冷戦終結が宣言された。国内では共産党の単一支配が廃止され、市場原理の導入が目指された。また、ソ連内の民族独立運動が高まり、リトアニアなどバルト3国がソ連からの独立を宣言した。

91年、ソ連解体の動きに危機感を抱いた保守派は、ゴルバチョフを軟弱なクーデターを試みたが、ソ連構成国であるロシア共和国のエリツィン大統領と市民らの抵抗によって失敗し、ソ連共産党は解散した。各共和国もソ連を離脱して、新たにロシア連邦を中心にいくつかの共和国が独立国家共同体(CIS)を創設し、ソ連は解体した。

また、多民族国家であったユーゴスラビア連邦は、政府が弱体化して、多民族間の対立が激化し、連邦崩壊に伴い宗教・民族・言語の違いによる問題が噴出し、

未来へ活かす歴史

拡大するヨーロッパ連合(EU)と国際情勢の変化

冷戦後のグローバル化の進展に伴い、地域統合は、国境を越えた地域の広がりの中で経済活動を活性化させるとともに、大きな市場を再構築し、これを管理する役割を負った。特に1993年に誕生したEUは、単一通貨(ユーロ)を導入し、2004年には、かつての東欧の旧共産圏へ一気に拡大した。しかし2010年代に入るとギリシアの財政赤字をきっかけにユーロ危機に陥り、大量の難民の流入やEU内部の経済格差、EUの理念などに関する考え方の違いは内部対立を生んだ。イギリスのEU離脱(→p.193)など進展は深まるが、戦争という過去を乗り越え新しい政治と経済を構築するEUへの期待も大きい。

欧州中央銀行(2002年) ユーロは、世界市場において単独で競争には小すぎる国(諸国)でも、EUとして結束することで競争力を高められるということを世界に証明した。

ヨーロッパ連合(EU)の拡大

ユーゴスラビアの解体

ユーゴスラビアは、「七つの国境、六つの共和国、五つの民族、四つの言語、三つの宗教、二つの文字、一つの国制」と称された、多民族の連邦制国家であった。社会主義政権崩壊のなかで、セルビア共和国に属するコソヴォ自治州に起こった民族対立を契機に、各共和国では民族主義的傾向の強い政権が誕生した。結果的に連邦国家スロベニア、クロアチアなどが次々と独立し、連邦は解体した。民族対立が激化し、激しい民族紛争と民族浄化(大量の犯罪行為)が行われた。

冷戦終結後の国際貢献

冷戦終結後、日本は、主要先進国の一員として、世界の安全保障にどのように関与するかが問われるようになった。1990年にイラクがクウェートに侵襲すると、日本にも人的支援が求められ、自衛隊の派遣が検討された。しかし、法整備も不十分なうえ、国内世論の反対が強く実現しなかった。日本は自衛隊の資金協力をし、湾岸戦争後にベネチア湾へ掃海艦を派遣したが、アメリカは日本の貢献が不十分であると批判した。これがきっかけとなり92年、**国連平和維持活動(PKO)協力が制定され、日本はカンボジアで行われていたPKOに自衛隊を派遣した。その後、武力行使を行わない自衛隊の海外派遣が世界各地で行われるようになった。**

連立政権時代の国際貢献

冷戦終結により、保守と革新という日本従来の国内政治の対立軸は曖昧となった。こうしたなか政治改革をめぐって自民党が分裂し、野党も交えて政界の再編を目指す動きが強まった。その結果、1993年に非自民連立政権の連立政権の時代に入り、55年体制が崩壊した。その後、日本の政治は連立政権の時代に入り、政党の離合集散が続いた。99年以降になると、自民党が公明党と連立して政権を担った。2009年に民主党による政権交代が実現したが、12年には再び自公連立政権が誕生し、現在まで続いている。

複雑な政治情勢を生んだ背景には、90年代初頭のバブル経済崩壊に始まった、「失われた20年」とよばれる日本経済の停滞もあった。製造業の海外移転によって、産業の空洞化が進み、少子高齢化による人口減少が深刻な課題となった。これに伴う社会保障費の増大などによる財政赤字の拡大

↓教科書 p.191-192

4 国際環境の変化と日本

学習 国際環境の変化によって、日本の政治や社会は、どのように変わったのだろうか。

冷戦終結後の国際貢献

冷戦終結後、日本は、主要先進国の一員として、世界の安全保障にどのように関与するかが問われるようになった。1990年にイラクがクウェートに侵襲すると、日本にも人的支援が求められ、自衛隊の派遣が検討された。しかし、法整備も不十分なうえ、国内世論の反対が強く実現しなかった。日本は自衛隊の資金協力をし、湾岸戦争後にベネチア湾へ掃海艦を派遣したが、アメリカは日本の貢献が不十分であると批判した。これがきっかけとなり92年、**国連平和維持活動(PKO)協力が制定され、日本はカンボジアで行われていたPKOに自衛隊を派遣した。その後、武力行使を行わない自衛隊の海外派遣が世界各地で行われるようになった。**

連立政権時代の国際貢献

冷戦終結により、保守と革新という日本従来の国内政治の対立軸は曖昧となった。こうしたなか政治改革をめぐって自民党が分裂し、野党も交えて政界の再編を目指す動きが強まった。その結果、1993年に非自民連立政権の連立政権の時代に入り、55年体制が崩壊した。その後、日本の政治は連立政権の時代に入り、政党の離合集散が続いた。99年以降になると、自民党が公明党と連立して政権を担った。2009年に民主党による政権交代が実現したが、12年には再び自公連立政権が誕生し、現在まで続いている。

複雑な政治情勢を生んだ背景には、90年代初頭のバブル経済崩壊に始まった、「失われた20年」とよばれる日本経済の停滞もあった。製造業の海外移転によって、産業の空洞化が進み、少子高齢化による人口減少が深刻な課題となった。これに伴う社会保障費の増大などによる財政赤字の拡大

未来へ活かす歴史

日本の領土と周りの国々

北方領土は、現在ロシアが不法占拠を続け、そのため日露間では平和条約が締結されないままとなっている。竹島は、サンフランシスコ条約締結時に日本の領土として扱われていたが(→p.150)、韓国は竹島に管轄権などを主張し、対立を醸成するなど不正な主張を繰り返している。尖閣諸島については領土問題は存在しないが、中国や台湾が領有を主張している。特に台湾は中国を自指す中国では、反日運動が頻発するなど、日本の領有に強く反発している。

自由貿易体制

関税などの貿易障壁を最小限にし、自由貿易のルール作りをする国際組織として、WTOが発足した。しかし、加盟国が増加し、先進国と新興国の対立も課題となっている。

情報のグローバル化を進めたインターネット

インターネットは、これまで研究機関や産学連携ネットワークとして発展していた。90年代半ばには、インターネット上の文章・画像などを簡単に検索できるウェブが開発されると、インターネットはさまざまな用途に活用されるようになった。さらに、これらの活用を促した。一般消費者向けのパソコンが開発されると、企業や家庭にインターネットの利用が普及し、国境や時間に関係なくさまざまな情報が伝達できる時代となった。これと同時に、パソコンやモバイルなどの情報機器が急速に普及して、世界中の人々に普及していった。

インターネットの活用が広がるきっかけとなったインターネット95の発表(1995年)

グローバル経済の進展と日本

冷戦の終結によって、市場経済の原則が世界の多くの国に受け入れられ、グローバル化が進んだ。そのため、これまで主に自国のルールに従っていた企業活動が、世界共通のルールでの競争にさらされることになり、**日本の企業でも、製品の規格から会計の基準、経営手法、働き方まで、さまざまな分野でグローバルスタンダード(世界標準)に合わせるための改革が進められた。**

一方、世界貿易が拡大するなか、1995年にはGATTに替わって自由貿易体制を管理する**世界貿易機関(WTO)**が発足した。これにより自動車分野の日本経済保護などが、WTOにおいて処理されるようになった。しかし、WTOでの交渉は時間がかかり、合意が難しくなるという問題が出てきた。そのため、2000年代以降、2か国以上の国や地域でモノやサービスの自由化を進める**自由貿易協定(FTA)**が結ばれるようになった。**日本もアジア太平洋経済協力(APEC)諸国との間で環太平洋パートナーシップ協定(TPP)協定を結ぶなど、地域での経済連携を積極的に進めている。**

日本と東アジアの関係

90年代に入ると、中国やベトナムなどの社会主義国も急速な経済成長を遂げ、東アジアはヨーロッパや北アメリカと並ぶ世界経済の中心地域となった。日本と東アジア諸国は、貿易を通じてより緊密に結び付くようになり、文化交流も盛んになった。一方で、東アジア諸国ではナショナリズムも強まった。日本と中国・韓国との間では、第二次世界大戦や植民地支配に関する歴史認識の違いが課題となり、北朝鮮の交渉は、核兵器・ミサイル開発問題や日本人拉致問題もあって停滞している。また、東アジア諸国とは領土をめぐる課題もあり、これらの改善に向けた努力が続けられている。

冷戦の終結により、グローバル化が急速に進んだことがわかる。

グローバル化によって日本が世界に果たす役割が変化していったことがわかる。

国際環境の変化を踏まえて日本の役割を捉える

前近代史がコンパクトにまとまった 巻頭の資料「地域の歩み1~5」

↓教科書 資料1-資料2

地域の風土ページ

東アジアの歴史

中国の文化を共有する世界 東アジアの風土と人々

東アジアは、ユーラシア大陸東部の中国を中心として、朝鮮半島や、日本列島などからなる。その北部の草原地帯では遊牧が、東部の森林地帯では稲作が中心となり、あわやきなどの稲作が栽培される。一方、長江流域やそれより南、日本・朝鮮半島南部などは、季節によって風向きが変化するモンスーン(季節風)の影響を受け、温暖・湿潤な気候で、水田稲作が発達した。昔で書かれた文字を継承する漢字、漢代に大きく成長を遂げた儒教、内陸アジアを通じて伝来した中国化された仏教、法制度の律令制などといった中国文化は、やがて東アジア諸地域や、ベトナム北部にも波及して、共通の文化要素を持つ東アジア文化圏を形成することになった。

儒教
孔子(前551?~前479?)
中国の春秋時代に生まれた孔子は、東洋への文化を基盤として、その家制度を基盤として政治理想を説いた。弟子により孔子の教えや思想が整理され、漢代に『論語』としてまとめられた。その教えは農業社会(儒家)漢代には官制が中心となる。儒教は、礼儀(礼)を重んじて徳を尊ぶ。孔子(前551?~前479?)
中国の春秋時代に生まれた孔子は、東洋への文化を基盤として、その家制度を基盤として政治理想を説いた。弟子により孔子の教えや思想が整理され、漢代に『論語』としてまとめられた。その教えは農業社会(儒家)漢代には官制が中心となる。儒教は、礼儀(礼)を重んじて徳を尊ぶ。孔子(前551?~前479?)
中国の春秋時代に生まれた孔子は、東洋への文化を基盤として、その家制度を基盤として政治理想を説いた。弟子により孔子の教えや思想が整理され、漢代に『論語』としてまとめられた。その教えは農業社会(儒家)漢代には官制が中心となる。儒教は、礼儀(礼)を重んじて徳を尊ぶ。

東アジアの風土

東アジアの風土

東アジアの気候は、ユーラシア大陸の東部に位置し、モンスーン気候が特徴的である。冬季は乾燥した北風、夏季は湿潤な南風が吹く。また、地形も多岐にわたる。山岳地帯や高原地帯も多く、気候も多岐にわたる。また、人口も非常に多い。東アジアの歴史は、中国を中心とした王朝の興亡と、その周辺地域との交流によって形成されてきた。東アジアの文化は、中国の文化を基盤として発展してきた。東アジアの風土は、中国の文化を基盤として発展してきた。東アジアの風土は、中国の文化を基盤として発展してきた。

↓教科書 資料5-資料6

地域の概説ページ

東アジアの歴史

東アジアの歴史

東アジアの歴史は、中国を中心とした王朝の興亡と、その周辺地域との交流によって形成されてきた。東アジアの文化は、中国の文化を基盤として発展してきた。東アジアの風土は、中国の文化を基盤として発展してきた。東アジアの風土は、中国の文化を基盤として発展してきた。

地域の概説ページ

↓教科書 資料3-資料4

日本の前近代史

日本の前近代史

日本の前近代史は、古墳時代から室町時代までの歴史を指す。この時期は、日本列島の統一と、中央集権的な国家の形成が行われた。また、仏教の伝来と、儒教の影響もこの時期に始まった。日本の前近代史は、古墳時代から室町時代までの歴史を指す。この時期は、日本列島の統一と、中央集権的な国家の形成が行われた。また、仏教の伝来と、儒教の影響もこの時期に始まった。

日本の前近代史

日本の前近代史

日本の前近代史は、古墳時代から室町時代までの歴史を指す。この時期は、日本列島の統一と、中央集権的な国家の形成が行われた。また、仏教の伝来と、儒教の影響もこの時期に始まった。日本の前近代史は、古墳時代から室町時代までの歴史を指す。この時期は、日本列島の統一と、中央集権的な国家の形成が行われた。また、仏教の伝来と、儒教の影響もこの時期に始まった。

日本の前近代史が1見開きで簡潔に押さえられ、中学校の復習にもなる。

「地域の歩み」一覧

地域	テーマ	教科書ページ
1 東アジアの文明	1 東アジアの風土と人々	資料1-資料2
	2 日本の歴史	資料3-資料4
	3 東アジアの歴史	資料5-資料6
2 南・東南アジアの文明	1 南・東南アジアの風土と人々	資料7-資料8
	2 南・東南アジアの歴史	資料9-資料10
3 西アジア・北アフリカの文明	1 西アジア・北アフリカの風土と人々	資料11-資料12
	2 西アジア・北アフリカの歴史	資料13-資料14
4 ヨーロッパの文明	1 ヨーロッパの風土と人々	資料15-資料16
	2 ヨーロッパの歴史①	資料17-資料18
	3 ヨーロッパの歴史②	資料19-資料20
5 南北アメリカの文明	1 南北アメリカの風土と人々	資料21
	2 南北アメリカの歴史	資料22

ビジュアルに捉えられる 「生活・文化から見る日本と世界」

↓教科書 p.81-82

生活・文化から見る日本と世界 明治期 文明開化とジャポニスム

導入として当時の日本人の暮らしが具体的にわかる絵画・写真を掲載。



- ↑ 1871年の神戸港 神戸や横浜など開港地は、外国船の来港により、急速に生活や街の様子が変わっていった。
- 外国人 和服の日本人と洋服の外国人が混在している。この後、日本人は洋服を生活に取り入れていく。
- 建物 洋風建築の外国領事館が立ち並ぶ。洋風建築は、東京(→p.15)などの都市にも次々造られた。
- 馬車と人力車 欧米の馬車が日本にも持ち込まれ、それを日本風に改良した人力車も作られた。
- 船 海上には、日本古来の和船に加え、欧米からやって来た蒸気船が見られる。

① 西洋文化で変わる日本の生活

開国後、神戸や横浜など開港地に外国人居住地が作られ、西洋文化が日本に流入した。これにより、よばれる生活の洋風化された。

開国により世界の影響を受けて変化した生活の様子がわかる。



↑ 牛鍋を食べる男性 文明開化の下、人々は、それまで食べていなかった牛肉を口に、新聞を読み、髪の毛を結うことをやめてざんぎり頭となった。(『安愚楽編』東京大学法文学部附属明治新聞雑誌文庫蔵)

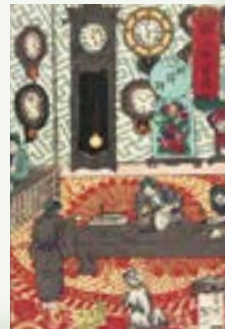
← 鉄道と郵便配達人 鉄道の敷設や蒸気船航路の開通、郵便制度の整備、そして国内の電信線や海底通信ケーブルの設置により、国内だけでなく海外からも多くの人や情報が行き交うようになった。(『開化幼学門』郵政博物館蔵)

FILE 西洋化する日本の【時間】

江戸時代以前の人々は、日の出から日の入りまでの昼の時間と、日の入りから日の出までの夜の時間をそれぞれ六つの刻に分けて生活していた(不定時法)。そのため、季節や地域(緯度・経度)によって、昼と夜の一刻の長さは異なっていた。

明治時代になり、太陽暦(西暦)が採用されると、1日は均等に24時間に分けられ、日曜日が公務の休日と定められた。この時間の西洋化の理由は、欧米との貿易における利便性、工場労働の時間管理の必要性、鉄道の運行に同一の時刻表が必要となることなどからである。こうして、人々は、国が定めた同一の時間で生活するようになった。

→ 明治時代の時計師 (『開化幼学門』国文学研究資料館蔵)



② 西洋の影響を受ける日本の芸術

開国後の日本には、技術や文化だけでなく、西洋芸術が入ってきた。芸術家たちはそれらの特質や技法を取り入れ、和洋折衷の芸術を生み出した。



↑ 黒田清輝作「湖畔」 パリに留学した黒田は、日本西洋画に明るい色彩の画風をもたらした。(東京国立博物館蔵 東京文化財研究所画像提供 重要文化財 1897年 縦69cm × 横84.7cm)

→ 狩野芳崖作「悲母観音」 芳崖は、フェノロサに勧められ、西洋技法を取り入れた新たな日本画を描いた。(東京芸術大学蔵 1888年 縦195.8cm × 横86.1cm)



日本の洋画芸術の先駆者 フェノロサ(1853~1908)



フェノロサは、明治政府が西洋文明導入のために招いた「お雇い外国人」(→p.75)の一人である。1878年に来日したフェノロサは、日本画を見て感銘を受けた。しかし、政府の「写実的な西洋画の方が優れている」という考えの下、日本画は衰退が進んでいた。そのためフェノロサは、「絵画の本質は写実ではなく心の内面の表現にあり、それには西洋画より日本画が適している」と講演し、政府に衝撃を与えた。その後フェノロサは、東京美術学校の設立に努力し、岡倉天心らと新たな日本画の開拓を目指した。また、フェノロサが行った寺社宝物の調査は、のちに文化財保護運動へつながった。

③ 欧米で起こった日本ブーム「ジャポニスム」

輸出や万博(→p.55)を通じて欧米に日本の芸術が広まり、日本ブーム「ジャポニスム」が起こった。これは、日本製品の愛好というだけでなく、芸術技法への影響ももたらした。

↓ モネ作「ラ・ジャポネーズ」 フランスの画家モネは日本愛好家であった。当時の欧米では、このように室内で日本風の格好をする女性も見られたという。(ポストン美術館蔵 1876年 縦231cm × 横142cm)



↑ ロートレック作「ディヴァン=ジャポネ」 この多色刷りのポスターは、遠近法を無視した色使いや、大膽な構図などに、浮世絵(→p.29)からの影響が見られる。ロートレックらの芸術は「アール=ヌーヴォー」(新しい芸術)とよばれ、従来の様式にとらわれない芸術が目指された。(1893年 縦79cm × 横60cm)

世界の日本 アジアに広まる和製漢語

幕末から明治初期の日本では、欧米の書物が大量に翻訳された。しかし、そこに登場する概念は日本語や中国の古典にないものも多く、人々は新たな言葉を創出しながら翻訳を進めた。このように日本で作られた漢字の新語(和製漢語)は、日清・日露戦争期の中国人留学生(→p.79)などにより中国に逆輸入され、朝鮮やベトナムにも広まった。それとともに、江戸時代以前に作られた訓読みの和製漢語も、アジアに広がっていった。

↓ 英語と日本・中国・朝鮮における翻訳語 それぞれ現在使われている表記である。

英語	日本語	中国語	朝鮮語
politics	政治	政治	정치
economy	経済	经济	경제
society	社会	社会	사회
right	権利	权利	권리
civilization	文明	文明	문명
history	歴史	历史	역사

全5テーマ
※各テーマは本冊子 p.4-5を参照。

西洋の影響は生活だけでなく文化にも及んだことがわかる。

日本の文化が世界に影響を与えたことも紹介。相互的な視野から歴史を捉えられる。

身近な視点が生徒の関心を高める 「ものから見る歴史」・「人物コラム」

↓教科書 p.121

全9テーマ
※各テーマは本冊子 p.5 下部を参照。

ものから見る歴史 FILE.6 衣服

女性の社会的地位の変化とファッション

1 モード大臣ともよばれたローズ=ベルタン(1747~1813) 王妃の庇護の下、次々に新しい流行を生み出した。

2 「レカミエ夫人」の肖像画(ダヴィド作) 総裁政府期から帝政期にかけて、パリ社交界で世界一の美女とよばれた女性。革命前の体を締め付けるスタイルから解放されたドレスは、離婚の自由が認められていた時期(→p.44)の女性の法的地位と呼応していた。

3 19世紀後半のバスルスタイル クリノリンスタイルでは、鯨のひげなどの枠に重ねたベチコートによって円形ドーム型に膨らませたスカートの特徴としていたが、バスルスタイルでは、スカートの後方みにボリュームを持たせた。バスルスタイルも、重厚さがあり、精巧で複雑な仕立てであることには変わりなかった。

4 軍需品を製造する女性を描いたポスター(20世紀 イギリス) 「軍需品の製造を学ぼう」と訴えるポスターでは、第一次世界大戦中に「果たすべき役目を務めている」女性たちが描かれた。軍需工場で働く女性たちは、働きやすい膝下丈のストレートスカートに作業着をはおっている。

その一方で、女性の服装の流行において、王政復古期(→p.47)から、再びコルセットで身体を締め付けるスタイルへと回帰する動きが見られたことは、19世紀に女性が夫に従属する法的地位へと戻されたことと連動していた。19世紀半ばから20世紀初めに流行したクリノリンスタイル、バスルスタイルに代表されるように、上流階級の女性の服装は、重くて非活動的で高価でもあった。そして、美しく着飾った女性は、独立した個人としてではなく、夫の経済力を示す飾りとならされていた。また、貧しい女性は、古着を手に入れて着るしかなかった。

●第一次世界大戦と女性
総力戦の時代となった第一次世界大戦期(→p.98)には、軍事基地や軍需工場、輸送・交通機関など、それまで女性には閉ざされていた労働の場において、女性が必要とされるようになり、女性の衣服は、働きやすいものへと変化した。大きく膨らませていたスカートは、ストレートに広がるものとなり、スカート丈も、足首を覆うものからくるぶし丈へ、さらには膝下丈へと短くなっていった。女性たちの働きやすい環境への要求は、女性の衣服を変える大きな力となったばかりでなく、女性の社会的地位の向上も目指された。このような風潮のなかで、北欧諸国やドイツ、ソ連では、1919年までの間に女性参政権も認められていった。

●女性の社会的地位と衣服
フランス革命前の社会では、国王ルイ16世(→p.35)の妃マリ=アントワネットに代表されるように、王妃が服飾文化を主導していた。身分制社会の位階秩序のなかで最高位の女性である王妃は、衣装においても権威を再生産していくことが求められた。王妃が重用したのが、仕立屋で衣装デザイナーのローズ=ベルタンである。平民出身のベルタンがパリに構えた店は、「王妃風」の衣装を求めるとあふれ返った。貴族ではない人々も王妃と似た衣装を手に入れることができるというのは、身分を超えて女性たちが同じ衣装を身に付けることを可能にした点で画期的であったが、身分秩序を揺るがせると危機感を抱く貴族たちもいた。

●コルセットからの解放と回帰
ベルタンは、それまでの重く身体を締め付けるドレスに替えて、より楽で快適な服装を模索し、モスリンの簡素でゆったりしたドレスを流行させた。こうした衣装の変革は、革命期に、女性の社会的地位の向上とも連動して、透けるような布地を用いた直線的で軽やかな衣装として完成された。身体を締め付けない衣装は、皇帝ナポレオン(→p.37)の妃ジョゼフィーヌが着用したことからエンパイアスタイルともよばれ、現代のウェディングドレスにおいても人気のあるデザインとなっている。

18世紀から第一次世界大戦にかけての女性の社会的地位の変化に伴って、その衣服のスタイルも変化したことを絵画とともに解説。

日本のケインズ
高橋是清(1854~1936)

アメリカで奴隷として売られるなど波乱の青年期を過ごした後、官界に入り、日銀総裁、総理大臣などを歴任した。満州事変後、大蔵大臣として積極的な財政政策を取り、米騒動からの脱出に成功したため、「日本のケインズ」とも称される。軍事予算の抑制に努めたことから、陸軍の青年将校に敵視され、二・二六事件(→p.129)で殺害された。

日本で初めて女性の参政権を実現した
楠瀬喜多(1836~1920)

高知県の土佐に生まれ、戸主であった喜多は、1878(明治11)年、区会議員の選挙で「戸主として納税しているのに、女だから選挙権がないというのはおかしい。本来義務と権利は両立するのが道理であり、選挙権がないなら納税しない」と果敢に抗議し、拒否されると内務省に訴え出た。当時、世界でも女性参政権はアメリカのワイオミング州議会だけといわれていたなか、喜多の住む地域では80年から女性参政権が認められた。しかし4年後の法改正により、また男性しか投票できなくなった。喜多はその後、亡くなるまで女性民権家として活動を行った。(高知市立自由民権記念館蔵)

黒人奴隷の惨状を描いた
ストウ(1811~96)

ストウは、奴隷制反対論者の父の下で、奴隷制反対活動の盛んな土地で育ち、奴隷制について知識を得ていた。人道主義的立場から黒人奴隷の惨状を描いた『アンクル=トムの小屋』は、1852年に出版され発売後9か月で30万部が売れるベストセラーとなって、北部の奴隷制反対の世論を高めた。

未来へ活かす歴史 『女性による社会運動』

明治時代、女性の社会的活動は制限されていた。衆議院議員選挙法では、女性の選挙権・被選挙権が認められず、民法(→p.74)でも、戸主を頂点とする家制度の下で、女性は婚姻や相続で不利な地位に置かれていた。しかし、平塚らいてうが1911年に雑誌『青鞥』を創刊し、「元始、女性は実に太陽であった」と宣言するなど、女性の社会運動は活発化した。第一次世界大戦後、欧米での女性参政権獲得に刺激され(→p.114)、女性の参政権運動が盛り上がった。20年には、平塚や市川房枝が新婦人協会を結成し、その努力により女性の政治集会への参加が公に可能になった。しかし、女性参政権の実現は、戦後を待たなければならなかった。

→平塚らいてう(1886~1971)

高橋是清の波乱の人生や、女性参政権を日本で初めて実現した楠瀬喜多の熱意にふれることができる。

「人物コラム」だけでなく、「未来へ活かす歴史」や「世界の中の日本」といった別のコラムでも人物を紹介。

世界・日本から計46人を掲載。

●人物コラム

資料18	カール大帝	p.63	中濱万次郎	p.116	ウォルト=ディズニー	p.166	アラファト
資料20	グロティウス	p.66	榎本武揚	p.118	原敬/加藤高明	p.171	ホー=チ=ミン
p.33	ワシントン	p.72	西郷隆盛/大久保利通	p.123	フランクリン=ローズヴェルト	p.173	佐藤栄作
p.40	マルクス	p.74	楠瀬喜多	p.126	ピカソ	p.176	鄧小平
p.41	ヴィクトリア女王	p.76	明成皇后(閔妃)	p.128	高橋是清	p.185	ゴルバチョフ
p.50	ガリバルディ	p.77	西太后	p.130	斎藤隆夫	p.187	マンデラ
p.51	ストウ	p.80	孫文	p.137	花森安治	p.189	バラク=オバマ
p.52	マリ=キュリー	p.82	フェノロサ	p.145	チャーチル		
p.57	ムハンマド=アリー	p.107	ウィルソン	p.147	毛沢東		
p.58	アフガーニー	p.109	魯迅	p.149	マッカーサー		
p.60	チャーロン=ワ(ラ=マ5世)	p.111	ガンディー	p.159	フィデル=カストロ/ゲバラ		
p.61	大黒屋光太夫	p.111	ムスタファ=ケマル	p.165	ナセル		

「見通し」と「振り返り」で 確かな学力が身に付く部構成

部の学習の流れ 2部 近代化と私たち を例に

部の導入（見通し）

・部の扉

地図と年表で学習する時代を概観。

・歴史ウォーミングアップ

中学校の学習を踏まえつつ、部を通しての「問い」を考える。

章の展開

・章の扉

章で学習する内容を見通すための学習課題を提示。

・章のまとめ

見通しに対して、章で学習した内容を踏まえて自分の考えを説明。

1章 江戸時代の日本と結び付く世界

学習課題：18世紀の日本やアジア、ヨーロッパは、それぞれどのように結び付いていたのだろうか。

2章 欧米諸国における近代化

学習課題：欧米で起こった市民革命・産業革命により、社会はどのように変化したのだろうか。

3章 近代化の進展と国民国家形成

学習課題：近代化が進むなかで、欧米諸国はどのような国家を形成していったのだろうか。

4章 アジア諸国の動揺と日本の開国

学習課題：近代化した欧米諸国の進出に、アジア諸国や日本はどのように対応したのだろうか。

5章 近代化が進む日本と東アジア

学習課題：日本や東アジア諸国は、近代化を通じてどのように変化していったのだろうか。

部のまとめ（振り返り）

・2部のまとめ

2部を振り返ってみよう！

ステップ1

日本の近代化について「経済や産業」「政治や制度」「文化や生活」「国際社会」の4つの観点で整理。

ステップ2

ステップ1の内容を、自分でまとめたり、ほかの人と共有したりして整理。

「近代化」についてより深く調べてみよう！

ステップ3

部の導入で立てた問いを確認し、「近代化」に関連する現代の課題について、さらに詳しく探究。

・部の導入（歴史ウォーミングアップ）

↓教科書 p.15-16, 19

キーワードと関連資料から疑問点を出し、生徒自身が問いを設定できる。

ステップ1・2

近代化について自分でまとめたり、ほかの人と話し合ったりする対話的な学習ができる。

ステップ3

部の導入で立てた問いを確認し、「近代化」に関連する現代の課題を選んで探究・考察を深められる。

・部のまとめ

↓教科書 p.83-84

「見通し」と「振り返り」で 確かな学力が身に付く見開き構成

- 部構成だけでなく、見開き構成でも「見通し」「振り返り」を構造化。「読み解き」→「学習課題」→「本文」→「確認・説明」の流れで課題解決型学習に対応。
- 各見開きの導入部分にはAB判の判型を生かし、写真や風刺画、文章資料などを豊富に掲載。学習導入に資料の「読み解き」を行うことで学習テーマが明確になる。

↓教科書 p.63-64

図版や資料の読み解きから学習を進められる「導入」。

学習の見通しを立てられる「学習課題」。

学習している地域を確認できる「地域インデックス」。

学習しているページの前後の出来事を確認できる工夫。

中学校の既習事項を確認できる「中学校との関連」。

↓教科書 p.63-64



1 日本に播かれたアメリカ船(1854年) (神奈川県立歴史博物館蔵)

史 オランダから幕府にもたらされた情報
1843年の情報
これまで清は(イギリス軍に)何度も打ち負け、清軍の高官は皇帝にイギリス軍にはかなわないと報告しましたが、皇帝は取り合わず…イギリス軍艦はおびただしく、皇帝も事態の沈静化のために和談を行うしかないと考えを変えました。
(『別段風説書』より、現代語訳・一部要約)

1852年の情報
アメリカ合衆国の政府は、交易を結ぶため日本に船を送るようです。…指揮官「ペルリ」という者が総督となったようです。…情報によれば、陸軍および攻城の武器をも積み込んでいます。
(『別段風説書』より、現代語訳・一部要約)

読み解き 幕府にとって、アメリカ船の来航は突然の出来事だったのだろうか。

4 黒船の来航と日本の対応

学習課題 日本は、ヨーロッパ諸国の進出に対して、どのように対応したのだろうか。

海外情報への対応
欧米の船が日本に近づくなか、幕府は、オランダ風説書など外国からもたらされる情報や、西洋の地理書の翻訳、帰国した漂流民からの情報を通じて、ヨーロッパ諸国の世界進出への認識を深めていた。アヘン戦争で大国の清がイギリスに敗れたことが清の商人などから日本に伝わるなか、幕府は1842年に「新水給与令」を出して欧米諸国との紛争を避ける一方、より一層の海防の強化を進めた。
また、海外情報は蘭学者たちのネットワークにより日本各地にも伝わり、海外に高い関心を持つ大名も現れるようになった。水戸藩では尊王思想と外国を退けようとする攘夷が結び付いて「尊王攘夷」思想が生まれ、一方、佐賀藩や薩摩藩ではヨーロッパの思想や技術を積極的に吸収し、その進出に備えようという動きが強まった。また、これらの藩では、意見を幕政に反映させるための模索も始まっていった。

日本の開国
ヨーロッパにて1848年からの動乱やクリミア戦争が起ること、アメリカがヨーロッパ各国の間を抜いて日本を目指した。太平洋岸への国土拡大を達成したアメリカは、南京条約で開港した清との貿易における中継地点と、日本近海における捕鯨のための補給地点を確保するため、日本を開国させようとしてペリーを派遣した。
1853年、ペリーは浦賀沖に到着した。幕府は、アメリカ船の来航をすでにオランダから通告されており、実力行使による対抗は難しいと判断して、開国を勧告するアメリカ大統領の国書を受け取った。その後、再び回答を聞きに来るといふペリーに備え、幕府は諸大名や下級の幕臣に意見を求め、朝廷にも報告した。それまで幕府が政治に関する意見をこれほど広く求めたことは無かったため、この後、朝廷や有力大名は発言力を強め、日本中の人々が身分を超えて政治に高い関心を持つようになっていった。
翌54年、幕府は日米和親条約を結び、外国船の補給と漂流民の保護を認めた。以後、露・英などとも同様に条約を結んだ。さらにアメリカからの自由貿易への強い要請は続き、アロー戦争の推移が伝えられると、幕府は開国して貿易を行うことを決断した。こうして58年に、日米修好通商条約が結ばれ、ヨーロッパ諸国とも同様の条約が結ばれた。諸条約には、関税自主権が無く領事裁判権を認めるなど、日本に不利な不平等項目が含まれており、その解消は明治時代の外交交渉における課題となった。

開国の影響と近代化改革
日本は、欧米との条約締結により、世界市場へ参加させられた。そして、貿易が活発になると国内経済は混乱した。世界的に不足した生糸や蚕卵紙が大量に輸出され、国内の絹織物業は原料不足となり打撃を受けた。海外で人気の茶も盛んに輸出された。一方、良質で安価な綿糸が輸入され、国内の綿関係産業も混乱した。変化に適応した新しい商人が台頭する一方、庶民は苦しい生活に追い込まれた。人々は欧米諸国に従属することを恐れ、さまざまな政治勢力となって日本の独立を維持しようと活動した。幕府をはじめ諸藩でも、欧米諸国に対抗するために軍事力強化と人材登用を中心とする近代化改革が進められた。幕府は欧米の学問を学ぶ番書調所や、海軍技術を学ぶ海軍伝習所を設置し、そこには諸藩の家臣も招かれた。さらに幕府や薩摩藩、長州藩は海外へ使節や留学生を派遣した。こうして欧米の文明に触れた人物の多くは、明治以降、近代化改革の指導者として活躍した。

幕府使節のアメリカ視察 海軍造船所の見学(1860年)
蒸気仕掛けでさまざまな細工をする様子は、目を驚かせるようなすばらしい工程で、華舌に尽くしがたい。…大砲の弾丸が見る間に百個もできる。…この機関を我が国でも用いることができれば、国益は計り知れないと思われる。
(村垣鑑正の日記より、現代語訳)

長州藩の留学生
藩の命を受け、1863年からイギリスに密航留学した5人は、帰国後に長州藩の改革や明治政府の近代化で活躍した。

民衆は、苦しい生活のなかで幕府の改革のために次々と重税を課されたことで、幕府への支持を急速に弱めていった。知識人や豪農たちのなかには、みずから集めた情報や国学などの学問を通じて政治体制への批判力を高め、草莽の志士として活動する者も現れた。

確認 ペリーが日本へとやって来た理由を、本文から書き出そう。

説明 ヨーロッパへの対応について、p.61～62の清と日本で、異なっている点とその理由を説明しよう。

歴史の選択肢 海外対応をめぐる論争

アメリカの開国要求について、幕府が意見を求めると、諸藩からは大きく4種類の意見が提出された。朝廷や天皇は、アメリカとの自由貿易の開始には基本的に反対していたが、日米和親条約の締結についてはしかたがないと許容した。

日米和親条約前の1853年			
受け入れ	拒絶	意見なし	
許容論 14	非戦論 26	拒絶論 8	意見なし 4

日米修好通商条約前の1857年			
受け入れ	拒絶	意見なし	
許容論 16	非戦論 4	拒絶論 3	意見なし 7

2 諸大名からの意見聴取の結果
意見なしと回答する藩や、そもそも回答がなかった藩も見られた。

3 幕末の物価の変遷
開港後、大幅な輸出超過による品不足で輸出品の値段が高騰した。連動して米など生活必需品の物価も高騰し、多くの庶民は困窮した。
(『近現代日本経済史要覧』)

考えよう
① 四つの論はどのような理由で唱えられたのか、これまでの学習を基に考えよう。
② 意見の傾向は1853年と57年で変わっているが、その理由を考えよう。

AB判の判型を生かした豊富な側注・資料。

巻頭4や巻末3の日本の歴史年表と対応。見開きで扱っている「時代インデックス」。

学習内容を振り返る「確認」。

習得した知識を用いて考察を深める「説明」。

思考力・判断力・表現力を育成する「歴史に迫る！」

●複数の資料を読み解き、なぜ当時の為政者はそのような判断を下したのかなど、当時の状況を踏まえて考察する作業を通じて思考力・判断力・表現力が育成できる。

↓教科書 p.67-68

幕府の対外交渉について、歴史家たちの相反する評価を示し、思考を促す。

歴史に迫る！ 2

幕府の対外交渉をどう評価するか



↑ペリーの神奈川(横浜)上陸

1853年、ペリーが軍艦4隻を率いて浦賀沖に現れた。「鎖国」のさなかにあった日本は、この黒船来航をきっかけに、1854年に日米和親条約、1858年に日米修好通商条約を結んで、開国に踏み切った(→p.63)。しかし、この二つの条約には不平等な内容があり、その改正は日本の大きな目標となっていた。

学習課題 歴史家たちは、幕府が行った交渉について、主に以下のような評価を下している。あなたはどちらだと考えるだろうか。

歴史家たちの評価

評価 1 結果的に明治政府はこの不平等条約の改正に苦しんだ。幕府の交渉は失敗である。	評価 2 当時の状況下で最大限の努力をし、結果的に日本は植民地化をまぬかれた。交渉は失敗とはいえない。
--	---

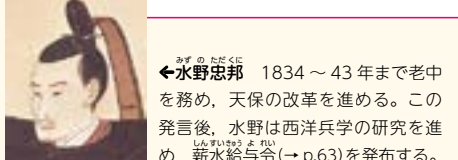
手順 ①まず「検証A 幕府側の考え」を検証
②次に「検証B 日米和親条約の内容」を検証
③「検証C ハリスとのやり取り」を検証
④「検証D 日米修好通商条約の内容」を検証
⑤「最終課題」で考えをまとめよう！

検証 A 幕府側の考え

資料① | 水野忠邦が得ていたアヘン戦争情報

清国はアヘンの取り引きを厳禁にしたことにより、イギリス人が不平を抱き、軍艦40隻余りを寧波に向かわせ、戦争を開始。寧波の一部が奪い取られたとこのことを来船者より聞いた。異国のことだが、これは自国の戒めにすべきである。浦賀の防衛についての建議が未定になっているが、行き届いていない。

(1841年1月 佐渡奉行への手紙 現代語訳)

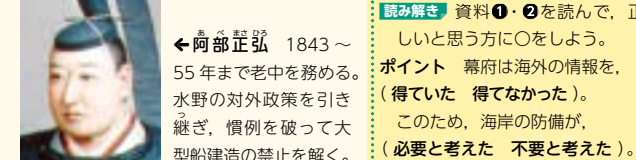


←水野忠邦 1834～43年まで老中を務め、天保の改革を進める。この発言後、水野は西洋兵学の研究を進め、薪水給与(→p.63)を公布する。

資料② | 阿部正弘の諸大名への説明

つまりは和戦の二字に帰着した。…近海をはじめ防衛は万全ではない。彼ら(アメリカ)が…来年渡来しても要望の許否は明言せず、なるべく平穩に取り計らうつもりである。しかし彼らが乱暴に及ばないとも限らない。その時になって覚悟が無くては国辱ものになるだろう。…万が一戦いになった場合には、…心力を尽くし忠勤に励むべしとの將軍のおおせである。

(1853年11月1日「幕末外国関係文書之三」現代語訳)



←阿部正弘 1843～55年まで老中を務める。水野の対外政策を引き継ぎ、慣例を破って大型船建造の禁止を解く。

検証 B 日米和親条約の内容

資料③ | 日米和親条約 (1854年) →ペリー

- 第2条 伊豆の下田、松前の箱館(函館)の両港は、アメリカ船が薪水・食料・石炭など欠乏している品を日本で調達するために限って渡来することを、日本政府は許可する。
- 第3条 アメリカ船が日本沿岸に漂着したときは救助し、漂流民を下田または箱館に護送し、アメリカ人が受け取れるようにする。
- 第9条 日本政府は、現在アメリカ人に許可していないことをほかの外国人に許可するときは、アメリカ人にも同様に許可する。
- 第11条 両国政府は、やむをえない場合には、合衆国の領事を下田に駐留させることがある。もっともそれは条約調印から18か月後でなくてはならない。



補足① 第2条により、下田・箱館(函館)の開港が認められたが、漂流民の保護、薪水・食料・石炭の供給に限定したもので、従来の薪水給与と変わらなかった。

補足② 第9条は、片務的最恵国待遇の承認であり、欧米諸国では双務的に結ぶことが一般的になっていたことから、不平等な内容となっていた。

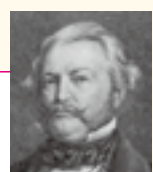
補足③ 第11条における領事の駐留については、日本語文では双方が、英語文は一方が必要とした場合となっており、結果的に領事が下田に置かれることとなった。

読み解き 資料③において問題となる条文はあるだろうか。また評価すべき条文はあるだろうか。

検証 C ハリスとのやり取り

資料④ | アメリカ総領事ハリスの演説 (1857年)

- ①アメリカは日本を親友と思っており、かつ、アメリカは戦争で領土を獲得したことはない。
- ②西洋各国は貿易を盛んに行っており、アメリカの希望は外交官の江戸への駐留と自由貿易である。
- ③アロー戦争が終盤になり、イギリス・フランスの脅威が迫っており、アヘン貿易による害悪も危ぶまれる。
- ④アメリカとの条約があれば、欧州諸国との確執が起こった際、アメリカ大統領が仲立ちをする。



↑ハリス アメリカの初代日本駐在総領事。

積極開国派の意見
神奈川・横浜を開港し、欧米諸国からさまざまなことを吸収して、幕府の富国強兵を成し遂げるべき。

消極開国派の意見
「アメリカは非侵略国」と言っているが、風説書によれば事実ではない。また、アヘンを中国に輸出している事実もある。拒絶すれば戦争になるので、当分は穏便な処置で対応すべき。

読み解き 資料④を踏まえ、ハリスの演説は幕府にどのような影響を与えたと考えられるだろうか。

検証 D 日米修好通商条約の内容

資料⑤ | 日米修好通商条約 (1858年)

- 第3条 下田・箱館港のほか、神奈川と長崎、新潟、兵庫を開港する。神奈川開港の6か月後に下田は閉鎖する。
- 第4条 日本に対する輸出入の商品には、別記のとおり日本政府へ関税を納めること。…アヘンの輸入は禁止する。
- 第6条 日本人に対して法を犯したアメリカ人は、アメリカ領事裁判所で調べたうえで、アメリカの法律で罰する。アメリカ人に対して法を犯した日本人は、日本の役人が調べたうえで、日本の法律で罰する。
- 第7条 開港場においてアメリカ人の歩ける範囲は…神奈川、六郷川筋を限界とし、そのほかは各方面10里とする。

補足① 第4条により、関税自主権を失ったが、1866年の改正までは、日本に有利な税率となっていた。商品別に値段が重さで税率が定められたが、のちの貿易の急増で、重さによる税率の方が対応しきれなくなった。アヘンの禁止も重要であった。

補足② 第6条は領事裁判権についてで、当時の日本の刑罰は欧米に比べてかなり重く、このままでは欧米からの大幅な干渉が予想されたため、幕府側もこの形を望んだ。

補足③ 第7条で外国人の歩ける範囲を決めたことにより、外国商人が居留地以外での商いができず、日本の国内市場を守ることにもつながった。

読み解き 資料⑤において問題となる条文はあるだろうか。また評価すべき条文はあるだろうか。

最終課題

質問1 あなたが資料③・資料④の条約のなかで「評価1の根拠になる」と考える条文はどれか。

質問2 あなたが資料⑤・資料⑥の条約のなかで「評価2の根拠になる」と考える条文はどれか。

質問3 あなたはこの幕府の対外交渉をどう評価するか、学習課題での考えを再検証してみよう。評価1と評価2の根拠となる条文にもそれぞれ触れて、説明してみよう。

条約を読み解くためのヒントとなる「補足」を掲載しているため、読み解くポイントがわかる。

幕府の対外交渉に対する評価の根拠を資料から選び取り、自分なりの評価を下すことで思考力・判断力・表現力が養える。

歴史に迫る！ 「歴史に迫る！」一覧 (全5テーマ)

教科書ページ	テーマ
p.43-44	フランス革命は人権宣言の理念をどこまで実現できたのか
p.67-68	幕府の対外交渉をどう評価するか
p.101-104	二十一ヶ条要求の何を問題とすべきか
p.139-140	チェンバレンの政策をどう評価するか
p.179-182	黒人差別の克服にはどのような取り組みが必要なのか

思考力・判断力・表現力を育成する「歴史の選択肢」

●学習している時代に国内外で議論となった歴史上の出来事を取り上げ、当時の人々の意見と選択を考察するコーナー。

↓教科書 p.64

歴史の選択肢 海外対応をめぐる論争

アメリカの開国要求について、幕府が意見を求めると、諸藩からは大きく4種類の意見が提出された。朝廷や天皇は、アメリカとの自由貿易の開始には基本的に反対していたが、日米和親条約の締結についてははしかたがないと許容した。

日米和親条約前の1853年			
受け入れ	拒絶	意見なし	4
2 許容論 14	非戦論 26	8	

日米修好通商条約前の1857年			
受け入れ	拒絶	意見なし	7
4	許容論 16	4 3	

↑2 諸大名からの意見聴取の結果、意見なしと回答する藩や、そもそも回答がなかった藩も見られた。

アメリカの要求を受け入れる論
開国論：積極的に外国と交流し、貿易を行うべきだ。
許容論：アメリカの開国要求を認めざるをえないだろう。

アメリカの要求を拒絶する論
非戦論：開国は拒絶するが、戦争も避けるべきだ。
攘夷論：戦争となっても外国は追い出すべきだ。

考えよう ①四つの論はどのような理由で唱えられたのか、これまでの学習を基に考えよう。
②意見の傾向は1853年と57年で変わっているが、その理由を考えよう。

開国にあたって唱えられた4つの論調の理由と、2つの条約についての意見の変化の理由を考察できる。

↓教科書 p.128

歴史の選択肢 中国大陸進出に対する日本国内の反応

1920年代までは、満洲を中国の一部だと認める新聞紙が多かったが、満洲事変発生後、ほぼ全紙が日本の軍事行動を自衛だと擁護し、満洲の独立を認める論調になった。国民の多くも同調したため、幣原外相(→p.110)は事変不拡大の方針を維持できなくなった。事変を批判したのは、吉野作造(→p.117)、石橋湛山(→p.104)らごく少数であった。

陸軍少佐が地方の農民に向けて行った演説(1930年ごろ)
諸君は五反歩の土地をもって、息子を中学にやれるか、娘を女学校に通わせられるか。ダメだろう。…他人のものを失敬するのは褒めたことではないけれども、生きるか死ぬかという時には背に腹はかえられないから、あの満蒙の沃野を頂戴しようではないか。
*約0.5ヘクタール (加藤陽子「満洲事変から日中戦争へ」)

満洲事変に対する石橋湛山の意見(1931年9月26日)
この問題の解決が困難なのは、つまり満蒙が中国の領土であるからだ。…中国人が、彼らの領土と信じる満蒙に、日本の主権の拡張を嫌うのは理屈ではなく、感情である。…いくら善政を敷かれても、日本国民は、日本国民以外の者の支配を受けることを快いと感じないように、中国国民にもまた同様の感情があることを許さねばならぬ。

考えよう なぜ、日本国民は中国大陸への進出を支持したのか考えよう。

満洲に対する2つの意見を比較して、なぜ多くの国民は中国大陸進出に同調したのかを考察できる。

「歴史の選択肢」一覧 (全8テーマ)

教科書ページ	テーマ
p.64	海外対応をめぐる論争
p.78	日露戦争に関するさまざまな意見
p.124	世界革命論か一国社会主義論か
p.128	中国大陸進出に対する日本国内の反応
p.150	全面講和と多数講和
p.160	核戦争への恐怖 米ソの指導者たちの決断
p.162	旧安保条約の課題と改定をめぐる闘争
p.174	沖縄の本土復帰は達成したかー沖縄の基地問題から「沖縄の本土復帰」を考える

資料の収集・整理・分析の技能が習得できる「技能を磨く」

●資料を読み解く手法や情報の集め方・まとめ方などを解説。探究活動や探究科目の基礎になる。

↓教科書 p.7

技能を磨く① 資料の特質と読み解き

過去を知るための資料にはさまざまなものがあるが、資料にはそれぞれ特質があり、読み取れることや、読み取る際に注意すべき点に違いがある。それぞれの特質に注意しながら、資料を活用していこう。

● **図像資料**

絵画 絵画は、その絵画の制作者の考えだけでなく、依頼者の考えが反映されることがある。事実に忠実に描かれているように見えても、事実と反することが描かれていることもある。

人物のイメージに注目
二つの絵は、ナポレオン(→p.37)という人物をどのような人物として描こうとしているか、という点で表現が異なっている。

作者や依頼者に注目
左の絵は、ナポレオンの支持者であったスペイン王が依頼した作品であり、右の絵は、ナポレオンの死後にアメリカ人とイギリス人が依頼した作品である。

読み解き 二つの絵が描かれた時代はどのような時代だったのか、時代背景の違いから、この絵の意図を考えてみよう(→p.35~38)。

風刺画・ポスター
風刺画は人物や事件などを誇張してユーモラスに描かれた絵であり、ポスターは見る者に対して、意見を訴えるために作られたものである。このため、この二つは必ずしも事実を正確に伝えているわけではないが、制作者の考えが明確になるため、当時の社会を知るうえで重要な資料になる。

写真
写真は実際の光景をそのまま映し出すため、正確に事実を伝えるように見える。しかし、撮影者の意図により、写したいものだけが写ることが可能であり、また、あとから加工されることもある。

読み解き この風刺画は、当時の日本の社会をどのように風刺しているだろうか。

読み解き 太平洋戦争(→p.18)でビルマの油田を攻撃した日本兵。真の兵士たちは、勇戦、どちらに見えるか。見た人は戦争にどのような印象を持とうか。

絵画の読み解きにおいて注目すべきポイントを示しているのので、資料を読み解く手法が具体的にわかる。

「技能を磨く」一覧 (全5テーマ)

教科書ページ	テーマ
p.7-8	資料の特質と読み解き
p.9	資料の比較・関連付け
p.85	情報の集め方
p.86	情報のまとめ方 意見交換の方法
p.198	レポートや小論文の書き方



教科書内容の理解を助ける 充実のコンテンツ



スマートフォン
からも閲覧可能。

●教科書巻頭7「QRコードについて」や、教科書の裏表紙のQRコードを読み取ることでアクセス可能。



*QRコードを読み取り、表示されたウェブサイトへアクセスした際には、通信料がかかる場合があります。
*QRコードは(株)デンソーウェブの登録商標です。



動画

教科書に📺のマークがある写真に関連する動画を18点掲載。

	テーマ		テーマ
1	第一次世界大戦中に工場働く女性(アメリカ)	10	西ドイツに亡命する東ドイツの兵士
2	民衆に向かって演説するレーニン	11	サンフランシスコ平和条約調印
3	フォードの自動車工場(1928年)	12	東京オリンピック
4	ナチ党のパレード	13	イラン=イスラーム革命
5	混乱するニューヨーク証券取引所	14	ベルリンの壁の開放
6	ナチ党支配下のドイツ	15	天安門事件
7	昭和天皇と面会する溥儀(1935年)	16	倒壊する世界貿易センタービル
8	真珠湾攻撃の被害	17	湾岸戦争
9	原爆で破壊された広島市街	18	アメリカを目指す移民



▲「ベルリンの壁の開放」の例

◀掲載している動画



地図

現在の世界地図のほか、部の導入で掲載している世紀別の世界全図を10点掲載。



一問一答

基本用語の定着が図れる。560問掲載。



年表

巻頭2-巻頭3の世界の歴史年表、巻頭4の日本の歴史年表のデータを掲載。



用語解説

近現代の学習に必要な概念用語を中心に解説。195語掲載。

※その他、「外部リンク」のコンテンツが掲載されています。



デジタル副教材も完備

●デジタル端末でご活用いただける副教材をご用意。



*詳細はQRコードからご覧いただけます。

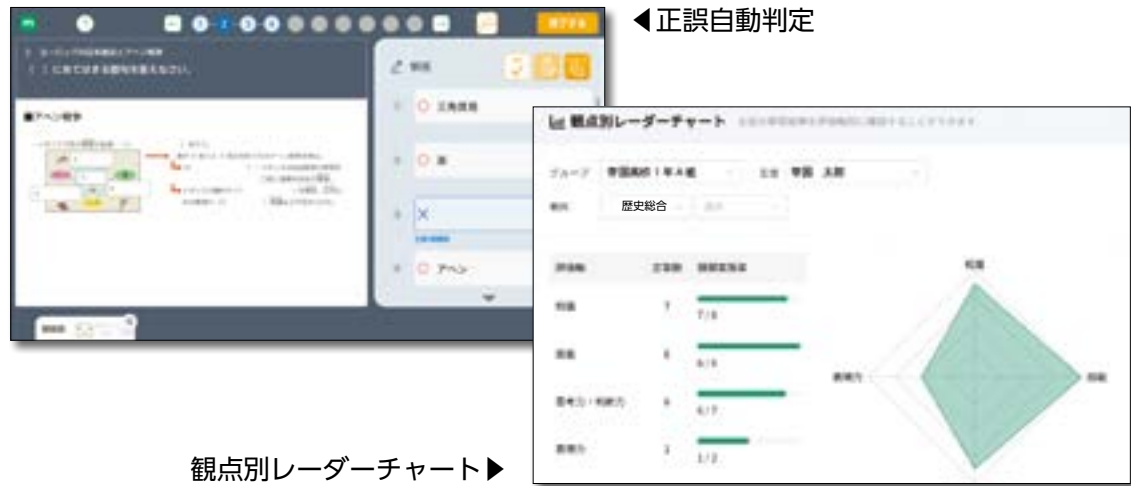
*価格は2024年度版のものです。

デジタル準拠ノート 明解 歴史総合

デジタル版：定価980円(税込)
セット版(書籍+クラウド配信)：定価1,480円(税込)



- 教科書準拠ノートを、タブレット用に再構成。
- *生徒向け機能：正誤自動判定/オリジナルの「見方・考え方問題」
- *先生向け機能：学習状況管理/観点別レーダーチャート自動作成/作問ツール



こちらのノートのデジタル版です。

明解歴史総合図説 シンフォニア 三訂版

クラウド配信版：定価820円(税込)
セット版(書籍+クラウド配信)：定価1,320円(税込)

- タブレット端末で閲覧できる「クラウド配信版」と、書籍とクラウド配信の「セット版」を用意。
- クラウド配信版オリジナルコンテンツとして、表示要素を自由に選択できる世紀別世界全図を全12点収録。



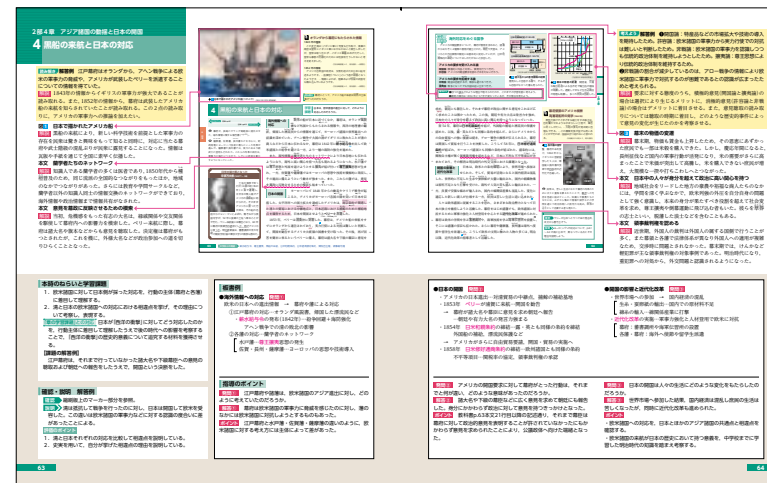
こちらの資料集のデジタル版です。

●指導を支援する教科書関連教材が充実。

1 指導資料

書名	内容	定価
明解 歴史総合 指導用資料 指導用教科書	<p>◆教科書本体の見開きページの縮刷版をもとに構成した、教科書と同じデザインの指導用教科書。</p> <p>*こちらの販売形態は指導用教科書のみ単品販売です。下記で紹介している指導書 Web サポートはご使用いただけません。</p> <p>①指導用教科書 ②指導書 Web サポート*</p>	4,400 円 (税込)
明解 歴史総合 指導資料 Webサポート コンテンツ付	<p>◆授業スライド(.pptx/Google スライド) ◆授業プリント(.docx) ◆見通し・振り返りシート(.xlsx) ◆特設ページワークシート(.docx) ◆評価問題例(テスト例)(.docx) ◆図版アニメーション ◆年間指導計画案・評価規準例(.xlsx) ◆板書例(.txt) ◆教科書紙面(.pdf) ◆教科書本文(.txt)</p> <p>◆教科書掲載図版〈カラー/モノクロ〉(.jpg) ◆設問(学習課題・確認など)の解答・解説(.txt) ◆『明解 歴史総合ノート』データ(.docx) ◆教科書 QR コンテンツ〈一問一答〉(.xlsx) ◆教科書 QR コンテンツ〈用語解説〉(.xlsx) ◆教科書 QR コンテンツ〈映像資料〉へのリンク ◆白地図集(.jpg) ◆参考文献</p> <p>* Web サポートは、帝国書院ウェブサイトからデジタルコンテンツをダウンロードいただけるサービスです。</p> <p>③付録冊子 ◆ Web サポート紹介冊子</p>	22,000 円 (税込)

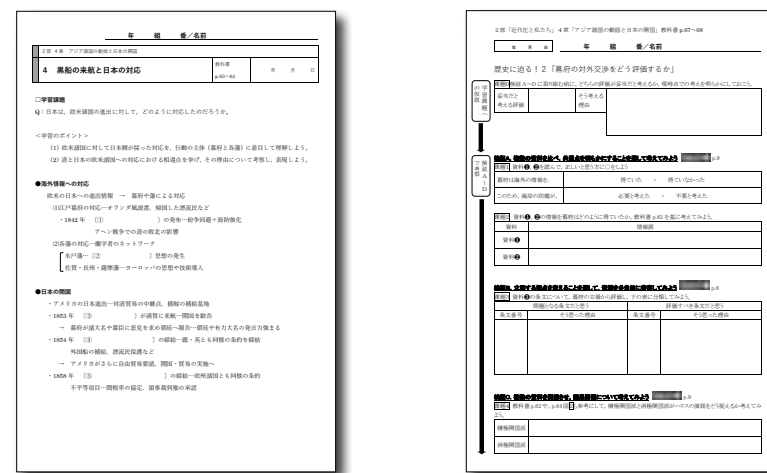
▼指導用教科書



- 教科書本体の見開きページの縮刷版をもとに構成した、教科書と同じデザインの指導用教科書。
- 発問例や解説などを具体的に掲載しており、授業の流れがわかる。

◀教科書p.63-64に対応したページ

▼授業プリント・特設ページワークシート



- 教科書の各見開きに対応した授業プリントを用意。先生ご自身で加工も可能。
- 教科書特設ページに対応したワークシートも用意。主体的・対話的で深い学びをサポート。

◀教科書p.63-64に対応した授業プリント(左), p.67-68に対応した特設ページワークシート(右)

▼授業スライド

- 教科書1見開きにつき10~20枚を用意。先生ご自身で加工も可能。
- 白黒反転版も収録。

教科書p.63~64

4 黒船の来航と日本の対応

2部 近代化と私たち
4章 アジア諸国の動揺と日本の開国

学習課題

日本は、欧米諸国の進出に対して、どのように対応したのだろうか。

考えるポイント

1. 欧米諸国に対して日本側が採った対応を、行動の主体(幕府と各藩)に着目して理解しよう。
2. 清と日本の欧米諸国への対応における相違点を挙げ、その理由について考察し、表現しよう。

海外情報への対応 1

Q. 江戸幕府や諸藩は、欧米諸国のアジア進出に対し、どのように考えていたのだろうか。

欧米の日本への進出情報 → 幕府や藩による対応

①江戸幕府の対応
…オランダ風説書、開国した漂流民など
・1842年 の発布
紛争回避+海防強化
アヘン戦争での清の敗北の影響

Googleスライドもご利用いただけます

◀教科書 p.63-64 に対応した授業スライドの一例

▼白黒反転の例

海外情報への対応 1

Q. 江戸幕府や諸藩は、欧米諸国のアジア進出に対し、どのように考えていたのだろうか。

欧米の日本への進出情報 → 幕府や藩による対応

①江戸幕府の対応
…オランダ風説書、開国した漂流民など
・1842年 の発布
紛争回避+海防強化
アヘン戦争での清の敗北の影響

2 書籍版副教材

*価格は2024年度版のものです。



明解 歴史総合ノート

定価710円(税込)

教科書完全準拠でオールカラーの見開き構成。確認問題を充実させ、知識の定着を強力にサポート。



明解歴史総合図説 シンフォニア 三訂版

定価850円(税込)

資料読解を通して、日本と世界のかかわりが見える資料集。

3 学習者用デジタル教科書

アプリ版 定価1,100円(税込)/クラウド配信版 定価1,320円(税込)

- ①教科書誌面(紙の教科書と同内容)
- ②拡大・縮小, 書き消し, 保存機能
- ③特別支援教育対応機能

・リフロー*表示や総ルビ, 白黒反転, 読み上げの機能を搭載。
*書体や文字サイズ, 行間, 余白などを自由に変更して表示する機能です。



特色一覧

* 下記の表は、帝国書院ウェブサイトでご覧・ダウンロードできます。

項目	特色
総合的な特色	<ul style="list-style-type: none">世界と日本のつながりがわかる本文やページ構成によって、世界とその中の日本を相互的な視野で学習できる。生活文化や人物などの豊富な特設とコラムで、歴史に興味・関心をもって学習できる。問いを深める構成や探究を促す特設によって、思考力・判断力・表現力が育成できる教科書になっている。
内容	<ul style="list-style-type: none">世界と日本の結び付きがわかるように本文やページ構成が工夫されており、日本と世界の相互的な関係を多面的・多角的に捉えることができる。また、各所にコラム「世界の中の日本」が設置されており、「世界とその中の日本」の視点をさらに深めることができるようになっている。各地域の風土と前近代史が、巻頭の資料「地域の歩み 1～5」で簡潔に紹介されており、近現代史を理解するために必要な知識を習得しやすいように配慮されている。歴史に影響を与えた「もの」や「人物」など、生徒に身近な観点が重視されており、歴史のおもしろさや楽しさを実感しながら学習できる。部の冒頭にある「部の導入」では、中学校での既習事項をもとに、生徒自身が「問い」を立てられるように工夫されている。部の終わりにある「部のまとめ」では、「近代化」・「国際秩序の変化や大衆化」・「グローバル化」それぞれのテーマについて、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史の考察、構想が3ステップで無理なくできるように工夫されている。テーマに沿って学習を深める特設「歴史に迫る!」やコラム「歴史の選択肢」が設けられており、アクティブラーニングがしやすいように配慮されている。特設「技能を磨く」では、歴史学習に欠かせない重要な技能がまとめられ、歴史的技能を着実に習得し、歴史的な見方・考え方が身に付くようになっている。
構成・分量	<ul style="list-style-type: none">学習指導要領に合わせて、重要事項が適切かつ丁寧に解説されている。また、発展的な内容も学習できるように側注欄の解説や資料、特設コーナーが充実している。各部、各章に設置した「部の導入・部のまとめ」、「章扉・章のまとめ」により、学習の「見通し」と「振り返り」がしやすい構成になっている。原則、1時間1見開き構成となっているので、分量が適量で学習計画を立てやすくなっている。学習課題→導入資料→展開→確認→説明と学習の流れが整理されているため、効果的に学習できるようになっている。巻末の特設ページ「歴史総合 頻出用語解説」で、重要な歴史用語を丁寧に解説している。
表記・表現 及び 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none">AB判のワイドな判型を生かして、写真やグラフ、地図などの資料が豊富に設けられており、視覚的にも理解しやすくなっている。本文ページの左上には、導入資料と発問「読み解き」が設置されており、生徒が資料を読み解き、考察する力を身に付けられるよう工夫がなされている。歴史事象の因果関係の記述が充実し、わかりやすい本文となっている。また、ふりがなや重要語句へのゴシック(太字)も効果的に振られている。本文行間には、関連する事項が扱われているページの参照ページや、関連図版・コラム・QRコードへの図番号・参照マークが割り当てられている。
ユニバーサル デザインへの対応	<ul style="list-style-type: none">本文や側注、キャプションなどの文字は、はっきり読み取ることができるユニバーサルデザインフォント(UDフォント)が使用され、読み取りやすい配慮がなされている。カラーユニバーサルデザインに配慮されており、色覚特性をもつ生徒にも読み取りやすい表現になっている。
その他	<ul style="list-style-type: none">紙は環境に配慮した用紙が使用されている。従来よりも軽く(旧課程教科書比、単位面積あたり約5%軽量)、かつ裏写りがしない用紙となっている。インキには、再生産が可能な植物由来の油などを原料とするインキが使用されている。使用期間の間、破損することがないよう、堅牢なつくりになっている。指導資料やデジタル教科書・教材、準拠ノートなど、充実した関連教材が用意されている。

著作者

川手 圭一 (東京学芸大学 教授)
井上 正也 (慶應義塾大学 教授)
木村 直樹 (長崎大学 教授)
黒木 英充 (東京外国語大学 教授)
小林 亜子 (埼玉大学 教授)
瀧井 一博 (国際日本文化研究センター 教授)
奈良岡 聡智 (京都大学 教授)
松重 充浩 (日本大学 教授)

● 青木 一真 (東京都立国際高等学校 指導教諭)
● 大橋 康一 (滋賀県立高等学校 元教諭)
● 加藤 健司 (愛知県立天白高等学校 教諭)
● 川島 啓一 (同志社中学校・高等学校 教諭)
● 後藤 誠司 (京都市立高等学校 元教諭)
● 野々山 新 (愛知県立大府高等学校 教諭)
● 美那川 雄一 (静岡県立小山高等学校 教諭)
● 株式会社帝国書院

編集協力者

● 笹川 裕史 (大阪教育大学附属高等学校天王寺校舎 教諭)
● 矢部 正明 (関西大学中等部・高等部 教諭)
● **特別支援教育に関する監修・校閲者**
● 丹治 達義 (筑波大学附属視覚特別支援学校 教諭)

